



平成30年5月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年4月13日

上場会社名 株式会社ケイブ
コード番号 3760 URL <http://www.cave.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 高野 健一

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役・CFO (氏名) 菊地 徹

TEL 03-6820-8176

四半期報告書提出予定日 平成30年4月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年5月期第3四半期の業績(平成29年6月1日～平成30年2月28日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第3四半期	1,742	15.6	42		56		38	
29年5月期第3四半期	2,066	21.3	50		58		206	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年5月期第3四半期	13.79	
29年5月期第3四半期	82.52	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第3四半期	1,321		791			59.9
29年5月期	1,048		620			59.1

(参考)自己資本 30年5月期第3四半期 791百万円 29年5月期 619百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年5月期		0.00		0.00	0.00
30年5月期		0.00			
30年5月期(予想)				0.00	0.00

(注)直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年5月期の業績予想(平成29年6月1日～平成30年5月31日)

平成30年5月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。なお、当該理由などは、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しております。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年5月期3Q	2,894,700 株	29年5月期	2,782,600 株
期末自己株式数	30年5月期3Q	47,000 株	29年5月期	47,000 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年5月期3Q	2,763,933 株	29年5月期3Q	2,505,018 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・平成30年5月期の業績予想につきましては、前述のとおり記載しておりません。本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な不確定要素により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、政府の災害復興及びデフレ脱却の方針のもと、経済再生と財政健全化を同時に実現していくための政策を進めており、消費者物価の緩やかな上昇などの回復基調が見られます。企業収益は好調に推移しており、投資の増加や賃上げ・雇用環境の更なる改善等につなげ、地域や中小・小規模事業者も含めた経済の好循環の拡大実現が期待されるなかで、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

このような環境の中、当社の属するオンラインエンターテインメント業界におきましては、平成29年の日本国内におけるスマートフォンアプリに対する消費支出は、2年前の平成27年と比較して60%増加しており（出展：App Annie「2017年アプリ市場総括レポート」）、依然ゲーム系アプリのシェアは大きいものの、非ゲーム系アプリへの消費額も伸びていることから、アプリ課金が消費行動に根付いてきたことがうかがわれます。

当社におきましては、平成29年11月28日にリリースした海外ゲームの輸入パブリッシングタイトル『ロード・オブ・ダンジョン』が、これまでの日本のゲームに無かったダンジョンを「経営する」という新しいゲーム性で、リリース直後には想定を上回って売上を伸ばしました。しかしながら、海外で開発されたゲームであり、日本市場向けの改良点を当社で認識したことから、積極的なプロモーションを控えてまいりました。現在は改良も完了し、今後は積極的なプロモーションを展開しつつ、定期的なイベント開催などによるユーザーを飽きさせない運営で拡大を目指します。

当社の主力であるスマートフォンゲーム『ゴシックは魔法乙女～さっさと契約しなさい～』は、「美少女シューティング」への原点回帰を掲げ、コンテンツの集約に取り組んでいる最中であり、既存ユーザーの復帰によるDAUの回復など、一定の成果を確認できております。社会的なe-sportsへの関心が高まっており、シューティングゲームとe-sportsの相性が良いことから、「原点回帰」と「e-sports」をキーワードに『ゴシックは魔法乙女』をさらなる成長軌道に乗せるべく運営しております。

また当社は、完全自社開発の新作ゲーム『三極ジャスティス』のクローズドβテストを平成30年2月に実施いたしました。テストの結果、ユーザーからの意見は好評だったものの、不具合の修正やプレイ感の向上など、満足度を上げた形でのリリースを目指すこととなり、平成30年5月期中のリリース予定を平成30年6月に変更することとなりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は売上高1,742百万円（前年同期比15.6%減）、営業損失42百万円（前年同期は50百万円の営業損失）、経常損失56百万円（前年同期は58百万円の経常損失）、四半期純損失は38百万円（前年同期は206百万円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

総資産は、前事業年度末に比べて273百万円増加し1,321百万円となりました。これは、現金及び預金92百万円の増加、未収入金59百万円の減少等により、流動資産が26百万円増加したこと、ソフトウェア仮勘定269百万円の増加等により、固定資産が246百万円増加したことによるものであります。

(負債)

負債は、前事業年度末に比べて102百万円増加し530百万円となりました。これは、短期借入金82百万円、未払費用48百万円の増加、未払金17百万円の減少等により、流動負債が104百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて171百万円増加し791百万円となりました。これは、資本金104百万円、資本準備金104百万円が増加したこと、利益剰余金38百万円が減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の業績は平成29年5月期において『ゴシックは魔法乙女』1タイトルが売上高の80%以上を占めており、『ゴシックは魔法乙女』の動向によって会社業績が大きく左右される状況となっております。この状況を改善するため、平成30年5月期において輸入パブリッシングタイトル『ロード・オブ・ダンジョン』をリリースしておりますが、今後の推移を予測することが難しく、これらの要因から、現時点においては信頼性の高い通期及び半期の業績予想数値を算出することが困難であります。

したがって平成30年5月期の業績予想につきましては、これらの当面の進捗状況を踏まえ、合理的な業績見通しの算定が可能になった時点で速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	368,551	460,968
売掛金	19,170	11,368
商品及び製品	5,496	5,316
貯蔵品	157	204
前払費用	17,664	20,021
未収入金	271,784	211,869
その他	893	610
貸倒引当金	△29	—
流動資産合計	683,689	710,358
固定資産		
有形固定資産		
建物	56,737	56,737
減価償却累計額	△27,913	△30,977
建物(純額)	28,823	25,759
工具、器具及び備品	106,866	100,826
減価償却累計額	△94,677	△83,119
工具、器具及び備品(純額)	12,189	17,706
有形固定資産合計	41,012	43,465
無形固定資産		
商標権	1,705	1,253
ソフトウェア	14,723	10,219
ソフトウェア仮勘定	218,162	488,047
その他	630	630
無形固定資産合計	235,221	500,150
投資その他の資産		
関係会社株式	16,938	—
敷金	55,568	52,019
差入保証金	16,011	15,971
長期未収入金	29,499	29,499
貸倒引当金	△29,499	△29,499
投資その他の資産合計	88,518	67,990
固定資産合計	364,752	611,606
資産合計	1,048,442	1,321,965

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
負債の部		
流動負債		
短期借入金	204,998	287,499
リース債務	2,545	2,545
未払金	121,642	103,688
未払費用	35,878	84,868
未払法人税等	10,500	8,879
未払消費税等	15,127	10,319
前受金	25,354	21,759
預り金	4,946	5,612
流動負債合計	420,993	525,173
固定負債		
リース債務	7,356	5,447
固定負債合計	7,356	5,447
負債合計	428,349	530,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,290,206	1,395,187
資本剰余金		
資本準備金	1,233,844	1,338,826
資本剰余金	1,233,844	1,338,826
利益剰余金		
利益準備金	870	870
その他利益剰余金		
別途積立金	10,000	10,000
繰越利益剰余金	△1,868,553	△1,906,662
利益剰余金	△1,857,683	△1,895,792
自己株式	△46,876	△46,876
株主資本合計	619,491	791,344
新株予約権	602	—
純資産合計	620,093	791,344
負債純資産合計	1,048,442	1,321,965

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
売上高	2,066,107	1,742,920
売上原価	653,850	646,631
売上総利益	1,412,256	1,096,289
販売費及び一般管理費		
回収費	612,962	516,680
広告宣伝費及び販売促進費	425,345	226,451
役員報酬	57,300	58,350
給料及び手当	108,085	100,300
研究開発費	43,857	20,714
地代家賃	25,805	23,142
支払手数料	18,899	15,325
その他	170,170	177,948
販売費及び一般管理費合計	1,462,426	1,138,913
営業損失(△)	△50,169	△42,624
営業外収益		
受取利息	2	5
受取手数料	16	—
前受金消却益	—	926
その他	18	21
営業外収益合計	37	953
営業外費用		
支払利息	3,104	2,347
新株予約権発行費	4,239	—
株式交付費	—	12,234
その他	688	273
営業外費用合計	8,032	14,855
経常損失(△)	△58,164	△56,526
特別利益		
事業譲渡益	—	19,655
新株予約権戻入益	—	602
特別利益合計	—	20,257
特別損失		
減損損失	146,367	—
固定資産売却損	127	—
固定資産除却損	12	123
特別損失合計	146,508	123
税引前四半期純損失(△)	△204,672	△36,392
法人税、住民税及び事業税	2,052	1,717
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	2,052	1,717
四半期純損失(△)	△206,724	△38,109

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年12月22日付で、SAMURAI&J PARTNERS株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金が104,981千円、資本準備金が104,981千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,395,187千円、資本剰余金が1,338,826千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。